CATCH

‘キャッチ’

Vol.101

2023.3

100号記念特集

CATCH

‘キャッチ’

の歴史をたどる！part2

西東京市図書館

記念すべき第100号！

CATCH（キャッチ）の歴史をたどる！part2

今回も、前号に引き続き「CATCH100号」記念part2として、過去の「CATCH」に紹介された本の中から、現編集委員が気になる作品を読み、それぞれの言葉であらためて紹介します！

『楽隊のうさぎ』

Vol. 77　2015年3月

中沢けい　著　新潮社

「学校にいる時間はなるべく短くしたい。それが克久（かつひさ）の方針だった。」

中学校に入学するも、その周りに興味を持てるものがない主人公克久。一年生は全員、部活動に加入しなければならない規則の下、上級生に勧誘されるがまま克久が入ったのは、毎朝6時半には登校して、下校するのは8時過ぎも珍しくないという「学校にいる時間がいちばん長い部活」でした。

それは、花の木中学吹奏楽部。昨年度には、全国大会にも出場した強豪チームです。

克久が担当するのはパーカッション。ティンパニをはじめとした打楽器です。共に担当に入ったのは「しょうちゃん」という女子。二人を指導するのは先輩である「藤尾さん」。そして多くの仲間たちとともに、克久は吹奏楽漬けの日々を送ります。

克久は母親と２人暮らし。父親は単身赴任中です。元々の引っ込み思案から小学校のときにいじめられていた克久。その克久の学校生活の実体は知らずとも思案してきた両親。そんな中、吹奏楽部と出会い変わってゆく克久を前に、家族も変わってゆくことになります。

吹奏楽部生活を続けることで、成長する部員や支える人々の織りなす物語。一人称と三人称を合わせたような語りによって、読み手もその一員となれたかのように彼らと共に爽やかな青春や、時には苦悩をも体験することができます。風のように過ぎる約２年間。辛い過去を背負った引っ込み思案の少年、克久の成長とは。タイトルにある、「うさぎ」にも注目です。ぜひ手に取ってみてください。

『青い鳥』

Vol. 81　2016年7月

重松清　著　新潮社

重松清さんの『青い鳥』は、「CATCH」の81号にて紹介されました。

この本に出てくる国語教師の村内先生は、臨時教師として各地の中学校をまわっています。そんな村内先生は言葉がつっかえて、うまく喋ることができません。

そんな村内先生を主人公に、「ハンカチ」「ひむりーる独唱」「おまもり」「青い鳥」「静かな楽隊」「拝啓ねずみ大王さま」「進路は北へ」「カッコウの卵」の８人の生徒の物語が紡がれています。

場面緘黙症（ばめんかんもくしょう）の生徒、担任の先生を刺してしまった生徒、交通事故を起こしてしまった親をもつ生徒、いじめの加害者だった生徒、気持ちを伝えられず抱え込む生徒、父親の自殺に苦しむ生徒、附属高校があるのに外部の高校を目指すことに決めた生徒、家庭を知らずに育った生徒。

それぞれの気持ちに寄り添い、本当にたいせつなことを教えてくれる、そんな素敵な先生が村内先生です。

文庫本版のあとがきで、重松清さんは、村内先生のことを「初めて書いたヒーロー」と言っています。ですが、「憧れの存在がヒーローの定義なら、村内先生は確かにヒーローではない」とも言っています。「村内先生は、うまく

喋れないし、ヒーローと呼ぶにはあまりに無力で不格好、彼の行動は活躍からはほど遠い。」と。

村内先生は、みんなが憧れるような存在ではないけど、憧れの存在だけがヒーローではないということを知ってほしいです。

この本は、「正しく」あろうとはしないけれど、そこがまた嘘くさくなくて正しいことだけが正解ではないんだと教えてくれます。

一話一話、とってもいいお話なので、ぜひ手にとってみてください！

『ミッキーマウスの憂鬱』

Vol. 90　2019年7月

松岡圭祐　著　新潮社

皆さんは東京ディズニーリゾートに足を運んだことはありますか？

この「ミッキーマウスの憂鬱」という本には、ディズニーキャストの方々の努力がたくさん詰まっています。

物語の主人公は、ディズニーランドのバイトになった21歳の青年、後藤。数々の会社を転々としてきて、夢のある会社に行きたいという理由でディズニーに来たはいいものの、想定と違う仕事や出来事の数々からディズニーの裏の現実を目の当たりにし、絶望してしまいます。そんな中でおこったミッ

キーのぬいぐるみ紛失事件。ディズニーの上層部は後藤たちの所属する美装部、特に準社員「恵里」に責任を押し付けようとするが…？！

この本は、表側は夢で溢れているディズニーの裏側の現実をリアルに描いた本となっています。準社員と正社員の格差、準社員の心の葛藤など、キャストの方々がどのような思いで仕事に臨まれているのか。仕事について深く考えさせられる内容です。

これを読んだあとにディズニーリゾートにいくと、いつもとは違った視点から楽しむことができそうですね。これからディズニーに行く予定がある方、仕事について考えてみたい方などは是非、読んでみてください！

『銃とチョコレート』

Vol. 72　2013年7月

乙一　著　講談社

話のはじまりは、「怪盗ゴディバ」に関する新聞記事。怪盗ゴディバがオリジンーヌ氏の「英雄の金貨」を盗んだ、という記事を主人公のリンツが読んでいるところからはじまります。そしてそのあと、胡椒を買いに父と入った露店で聖書を買ったことで、物語は動き出すのです。

この本のおもしろいところは、挿し絵や表現の不気味さと相反する遊び心です。

登場人物たちの名前は、みんなチョコレートに関するものです。怪盗ゴディバに探偵のロイズ、主人公のリンツと母・メリーと父・デメル、友達のディーンとデルーカ…。知らない名前でも調べてみるとこれもチョコレートに関係あるのか！と驚くことも。

そして、怪盗と探偵、宝の地図を道標にした宝探し、警察からの逃避行、などなど、誰もが胸を躍らせる要素が満載です。

誰が味方で誰が敵なのかを考える暇さえ与えてくれないスピード感のどんでん返しに次ぐどんでん返し。ジェットコースターのような急展開の先に待つ衝撃のラストは必読です。

この本を読むときはぜひ、隣にチョコレートを置いて、ゆったりと落ち着ける場所で、一気読みできる時間に。雰囲気を完全に楽しむなら、ハードカバーで読むのがおすすめです。

101号で本を紹介した

共同編集者のつぶやき
～編集後記に代えて～

100号に引き続き、今回のテーマ、「CATCH」の歴史をたどる！では、現編集員が、それぞれの新しい視点で、過去掲載された本を紹介しました。100号もぜひ、ご覧ください！

①ペンネーム
②「CATCH」のバックナンバーを見ての感想
③近況

①ブロッコリー
②あまりバックナンバーを読む機会がなかったので、今回先輩方の本紹介が見られて勉強になりました。
③こないだ執拗に私を追いかけてきた中間から解放され、今は合唱コンクールに追われています。合唱コンが終わったら即期末に入ります。一息つく暇すらありません。おまけにメールの通知が機能せず、仕事をためにためた結果原稿の締め切りに盛大に遅れてしまい、現実の厳しさをしった9月後半と10月でした。不甲斐なし。

①アカ
②最近「同志少女よ敵を撃て」という本に心を動かされました。ぜひ読んでみてください！
③最近は部活をがんばっています。部活関連の本も面白いです！冬の寒さに負けずこれからも頑張りましょう！

①しほ
②普段読む本は、作者か趣向が似通ってしまいがちなので、今回、多くの新感覚を体験することができました！
③最近、日本史に興味を持ってきました。世界史選択なのに…

①なぎ
②初期の頃のバックナンバーは、今とは雰囲気も装丁も全然違っていて驚きました。おもしろい特集がたくさんあって、「自分だったらこの特集で何の本を紹介しようかな」と考えるのも楽しかったです！
③推しが新曲を出したのでものすごく幸せな日々を過ごしています。